

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	社会思想史B		
英文授業科目名	History of Social Thought B		
開講年度	2007年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	庄司 俊之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
JZM04216@nifty.com	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>思想は社会のなかから生み出され、また何らかの影響を社会のほうへ投げ返そうとする。そうした相互作用や葛藤の歴史として社会思想史を眺めた場合、主題はおのずと決まってくるだろう。思想をつうじて社会や歴史を学ぶこと、あるいは特定の社会的・歴史的状況のなかでいかなる思想が要請されるのかを思考することである。</p> <p>本講義「社会思想史」は、前期の「A」を概論とし、後期の「B」ではより専門性の高い題材を扱う予定である。より専門的な内容をもつ後期は、20世紀を代表する思想家のひとり、ハンナ・アーレントを題材とする。彼女がみた全体主義の危機とは何か、それに対して彼女はいかなる思想的対応を試みたか。本講義では、アーレントの思考が社会・歴史と不可分に結びついた格好の例とみなし、社会思想史の方法論とその意義とを学ぶことを目標とする。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
社会思想史A

## 電気通信大学 平成19年度シラバス

### 【教科書等】

川崎修「アレント - 公共性の復権」(講談社・現代思想の冒険者たちシリーズ、1575円)をテキストとする。すべての章に言及する余裕はないので、講義で扱う章は第1回目の講義で通知する。  
また、必要に応じてプリントを配布する予定である。

### 【授業内容とその進め方】

社会思想史Bではハンナ・アーレントという思想家を主題とする。  
講義では、最初に20世紀とアーレントとに深刻な影響を与えた全体主義とは何だったかについて、簡単なスケッチをするところから出発する。そのうえで、テキストにそってアーレントの著書「全体主義の起源」の内容を概観し、全体主義が西欧思想史のひとつの決算としてあること、あるいはそれが過去の問題というにとどまらず、現代にまで陰影を投げていることを確認する。そしてその後のアーレントの哲学的な営みが、すべて全体主義的なものとの対決に捧げられていることを論じていく予定である。  
後期の講義内容はいわゆる総花的な思想史ではない。しかし、アーレント自身が一個の社会思想史家であり、アーレントを学ぶことは必ずや社会思想史の重要な一断面を照射するはずである。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2/3以上出席した学生を評価対象とする。評価は、最後に提出してもらったレポートによる。  
レポートの課題は未定だが、講義内容の要約、あるいは講義と関連した自由研究など、いくつかのオプションを用意する予定である。  
評価基準は、提出されたレポートがポイントを押さえていれば「良」、押さえていなければ「可」、自分の言葉で語りなおし、理解が血肉化していると認められれば「優」とする。とくに独創性のあるものが「秀」である。  
その他、講義に積極的に取り組んだ者には平常点を加味する予定である。

### 【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

### 【学生へのメッセージ】

### 【その他】